

# CASBEE® 新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要					
建物名称	ダイレックス新潟大学前店		外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください		
建設地	新潟市西区坂井砂山四丁目417番1、417番5、421番1、422番、423番1、424番1				
用途地域	第1種住居地域、第2種住居地域				
建物用途	物販店				
竣工年	2022年12月 竣工				
敷地面積	10,159.76 m <sup>2</sup>				
建築面積	2,403.47 m <sup>2</sup>				
延床面積	2,311.10 m <sup>2</sup>				
階数	地上1F				
構造	S造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2022年6月6日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
			B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{43.8}{35.7} = 1.2$	
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
	3.3		維持管理	Q2.1.3	4.0
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
	2.7		信頼性	Q2.2.4	2.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	5.0
	4.0		自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア		節水	LR2.1.1	1.0
	2.0		躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア		生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0
	1.5		敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
	3.0		地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。 ・メンテナンス性に配慮した内外装計画とした。 ・主要設備機器は屋外に設置し、バックアップ設備・メンテナンスのための十分なスペースを確保した。					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

# CASBEE® 新潟

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築) 2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ダイレックス新潟大学前店	階数	地上1F
建設地	新潟市西区坂井砂山町下目417番1、417番5、421番1、422番、423番1、424番1	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、第2種住居地域	平均居住人員	XX人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,745時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 竣工	評価の実施日	2022年6月6日
敷地面積	10,160㎡	作成者	藤原慧
建築面積	2,403㎡	確認日	
延床面積	2,311㎡	確認者	

外観/パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 2.7</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.3</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.2</p>
LR 環境負荷低減性		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.7</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>周辺環境に圧迫感を与えない配置計画とした。 建物内は空間にゆとりを持たせ、将来的な変更等に対応可能な仕様とした</p>		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>内装材についてはほぼすべてにF☆☆☆☆建材を採用しシックハウス対策に配慮した。</p>	<p>メンテナンス性に配慮した内外装計画とした。</p>	<p>空地率を60%以上確保し周辺環境に圧迫感を与えないような配置計画とした。</p>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>建物外皮はガラスウール断熱材を敷設し熱負荷抑制に配慮した。</p>	<p>内装は躯体+軽量鉄骨材下地+仕上材の構成とし分別のし易さに配慮した。</p>	<p>来客数に対応できるように、相応の駐車台数、駐輪台数の確保を行った。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される